

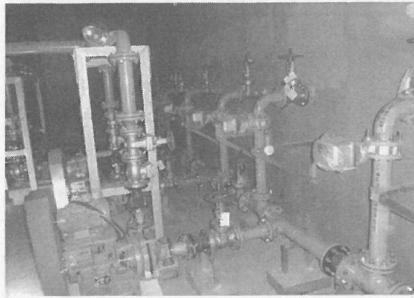
日本初のACA認証取得

流浸工業のナイロンコーティング鋼管 場内配管、給水管などに使用

保持・無接点でコーティングする「ミニコート法」で認証を受けているのはアジアで同社のみ。水道分野でのナイロン樹脂の用途としては、耐候性や防錆力などに優れたナイロンコーティング鋼管があり、浄水場の場内配管や水管橋、給水管などに用いられる。また、国土交通省の公共建築工事標準仕様書平成31年度版に給水用途としてナイロンコーティング鋼管が記載されている。

コーティング事業を手掛ける流浸工業(堺市、大久保秀俊社長)は、フランスでナイロン11樹脂を製造しているアルケマ社の独自規格「ACA認証」を国内で初めて取得した。アルケマ社がナイロン11樹脂を使用するコーティングメーカーに対し、製造工程、品質管理、トレーサビリティ、商品知識などが適切であるかを監査し、基準を満たした企業を認証するもの。ACA認証の取得企業は流浸工業を含め世界で27社あり、このうち小部品を無

前身である大久保産業として流動浸漬法によるコーティング技術を国内で初めて導入し、昭和50年から鋼管やパネルタンク部材のコーティング用にナイロン11樹脂の取り扱いを始めた。抗菌・抗ウイルス剤の添加といったオリジナル樹脂の開発も可能であり、流動浸漬用ポリ塩化ビニルを鋼管にコーティングした「リユースコート」シリーズなど、コーティング技術を活用した幅広い製品で提供している。



浄水場でも活用されている
ナイロンコーティング鋼管

ACA認証取得を受け、同社は今後の目標として、ナイロン11樹脂コーティング製品の拡充とともに、さらなる品質技術の向上に努めていくとした。